

■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

読書の時間を、子どもたちが楽しみ、 感じ取り、考える時間にするために

東京都立墨東特別支援学校
河野聡美、生井恭子

はじめに

本校は創立31周年を迎えましたが、2017年度4月より肢体不自由教育部門（東部療育センター内の分教室を含む）と病弱教育部門（国立がん研究センター中央病院内の分教室を含む）の2部門構成となった特別支援学校です。

肢体不自由教育部門の子どもたちは、感覚や環境の変化を受け止める学習などをする自立活動を主体とした教育課程。他者とのコミュニケーションをとりながら自立を目指す知的障害を併せ有する教育課程。大学受験などを視野に入れて学習に取り組む、準ずる教育課程があります。3つの教育課程に分かれています。発達段階や障害はさまざまです。また、日常的に医療的ケアが必要な子どもたちも在籍していることが特徴です。

また、2012年度4月から3年間、東京都教育委員会の指定を受け「言語能力向上拠点校」としてすべての子どもたちのコミュニケーション力の向上と読書環境を整え、生活の中に本がある

学校作りをしてきました。その取り組みの一つにマルチメディアDAISY図書の活用があります。今年度は、小学部での活用3例を紹介します。

本校の環境

2014年度より、タブレット端末を活用したマルチメディアDAISY図書を導入し、今年度で4年目になります。5台のiPadでマルチメディアDAISYが利用できます。図書館にはマルチメディアDAISY図書の入っているノートパソコンも1台あります。また、お話ごとにディスクが分けられており、貸出しもしています。iPadは教員が保管庫から借りて使いたい場所で使用できます。

活用実態と様子や効果

（1）小学部2年生、知的障害を併せ有する教育課程の子どもA

①子どもの実態

Aさんは、知的障害を併せ有する教育課程に在籍する小学部2年生です。ひらがなに興味をもち始め、一文字ず

つ拾い読みすることができるようになってきました。身体のみひやそれに伴う付随運動のため、自分が読んでいる場所を目で追うことや指でなぞることが難しい様子が見受けられます。

② 取り組みの内容と実態

国語的・算数的内容を組み合わせた「国語・算数」の学習と、一人一人の課題に合わせた個別学習のなかに取り入れました。

iPadでマルチメディアDAISY図書を使用して、声に出して音読する課題を設定しました。本のタイトルを、子どもの発達段階、興味・関心に合わせ、無理なく、しかも、簡単過ぎずに集中して最後まで取り組めるような長さのものを選ぶことが配慮した点です。このような作品を探すことが難しいなか、Aさんが気に入った作品は、

『やおやさん』『やさいだいすき』『やおやおかいもの』『どうぶつレストラン』などです。絵が見やすく、一枚の挿絵に対して一つの単語や簡単な文章のみの作品を中心に教材として活用しました。

再生の速度をゆっくりにし、読み上げの音声を真似する方法で音読を行っています。初めのうちは、小さくて不明瞭な声で音読をすることが多かったのですが、繰り返していくうちに自信をもって音読に取り組めるようになって

きました。はっきりした声で大きく出るようになった理由としては、

- ・単語一文字ずつにハイライトが付いているので、読んでいる箇所がわかりやすいこと
- ・ひらがな一文字一文字を意識して音読できること

の2点が課題に合ったと評価しています。

また、絵本を元にマルチメディアDAISY図書が作られているので、挿絵は絵本と同じで美しく、音声もわかりやすく、聞きやすいです。動物の鳴き声では、本物の声を聞きながら学習できました。その時の子どもの興味・関心に合った内容に取り組むことができたと思っています。ひらがなだけでなく、お話に出てきた野菜や動物についての興味も広がっています。今後が楽しみです。



『やおやさん』を音読



ひらがなを一文字ずつ確認

(2) 小学部2年生、知的障害を併せ有する教育課程の子どもB

①子どもの実態

Bさんも知的障害を併せ有する教育課程に在籍する小学部2年生です。

読み聞かせや図鑑の写真を見るのが大好きです。一人で読んで、理解をすることは難しいですが、読み聞かせは、おおよその内容を理解して、楽しむことができます。身体面では、筋力が弱いため、本を持つ、ページをめくるなどの動作に難しさがあります。

②取り組みの内容と実態

登校後、身支度をしてから一日の学習を知る「あさのとりくみ(自立活動)」のなかで、マルチメディアDAISY図書を活用しました。

当初は、教員側が子どもの興味・関心に合わせて作品を選んでいましたが、次第に本人からリクエストが出るよう

になってきました。文章が少なく挿絵がメインの作品や紙芝居風の作品、絵のみの作品、図鑑シリーズを読むことが多かったです。

繰り返し楽しむうちにお気に入りの場面が出てくると、教職員や友達に「見て！」と声をかけるなど、周囲の人とのかかわりあいにつながっている様子も見られるようになってきました。

また、これまでは、ページをめくりたいときに教職員を呼ぶ必要がありましたが、マルチメディアDAISY図書では自分のペースで読み進め、じっくりとお話の世界に入る様子が増えました。

Bさんにとっては、

- ・マルチメディアDAISY図書を通して人とのつながりを広げるきっかけを作ることができたこと
 - ・人に頼まず、自分のペースで読み進めることができる時間と「一人で読めた」の自信につながったこと
- の2点を身につけることができたと担任は考えています。

現在は、お話が終わると「おわっちゃった」と残念そうに伝えてくることもよくあります。

今後は、ストーリーのあるお話や絵や写真のある説明文が読めるようになると思います。



読みやすい環境設定が大切



電車の図鑑にもう夢中

(3) 小学部3年生、自立活動を主とする教育課程の子どもC

①子どもの実態

Cさんは、自立活動を主とする教育課程に所属する3年生です。環境の変化や日々の体調管理がとても大切で、登校後は、たくさんの空気が体内に入るような呼吸の取り組みや座位などの姿勢がとりやすい身体を整える取り組みをしっかりとすることで、一日体調良

く過ごすことができます。

学習面では、繰り返し学習することで、短い見通しや簡単な因果関係をもって、期待感を高めながら取り組むことができます。

身体の動きの面では、自主的な動きは難しく、教職員と一緒に活動することが主になりますが、くすぐり遊びでは、身体に触れている部に気がつき「きた、きた、きた！」とドキドキ・ワクワクしていることが様子から伝わります。また、黒目が上転してしまうため、観る（見る）ための環境作りをする必要があります。

②取り組みの内容と実態

給食時は、身体を横たわって胃ろう部からの栄養注入をする時間が約1時間あります。注入中は、担任とたっぷり過ごせる貴重な時間です。Cさんも担任と過ごす時間を楽しみにしているように感じています。

この時間に個別学習を行っています。注入の様子を確認しながら手遊びやスイッチを利用した簡単な因果関係の学習を繰り返ししています。

学習の最後にマルチメディアDAISY図書を取り入れています。この際の配慮が重要となります。

まず、iPadをアームに付け、見やすい位置・角度・距離に合わすことで、Cさんが意欲的に観る学習の環境を整

えます。遠すぎるとタブレット端末に焦点が合いません。Cさんにとっていい位置で絵本が見え、抑揚のついた読み聞かせが始まると笑顔になります。それは、眼球をよく動かして観る様子からわかります。

Cさんにとっては、以下の2点が有効だったと担任は考えています。

- ・子どもに合った距離、位置に設定できること
- ・ページが変わった際、視線、焦点を合わせる時間を考えながら、ページをめくる速度を変えることができること

現在は、『コッケモーモー！』や『おおきなかぶ』などの絵がわかりやすく繰り返しのある絵本がお気に入りです。同じフレーズが聞こえるとニコリと笑顔になります。読み終えた後に担任と、布で作った「かぶ」を一緒に引っ張って「うんとこしょ どっこいしょ」などのごっこ遊びをすることもあります。

また、場面が変わるたびに視線を瞬時に動かしてよく観ています。ページをめくるのも自動なので、めくるタイミングも期待している様子が伝わります。

今後は、分かち読みの作品が入ると、さらに楽しめそうです。



楽な姿勢で読書タイム

おわりに

本校が、『わいわい文庫活用術』に実践例を紹介するのは、今年で4回目になります。

学習の場面、読書活動の場面、身体や気持ちを休める場面、医療的ケアでの場面など、さまざまな活用の実践を紹介してきました。今後も人とのかわりを基礎として、読書の世界を多くの子どもたちが楽しみ、感じ取り、考える時間にするために活用をしていきたいと思います。

これからの課題は、より多くの教職員がマルチメディアDAISY図書の利点を知り、子どもたちにとって電子図書が身近なものになっていくための環境作りをさらに進めることです。

まずは、タブレット端末を手に取り、電源を入れることから始め、いままでの『わいわい文庫活用術』の各校の取り組みを少しずつ知ってもらうことから始めたいと思います。